

BDHQ の個人結果帳票を返却することのメリット【主に研究者向け】

回答者(対象者)目線で調査や研究を行っていただきますよう、お願い申し上げます

■お願い

BDHQ は食習慣・栄養素等摂取量を調べるためのシステムですが、それだけでなく、回答していただいた人に個人結果帳票を返却し、その人の食習慣の改善に役立てていただけることを特長とするシステムでもあります。したがって、できるだけ、個人結果帳票を回答者(対象者)にお返し申し上げますよう、お願い申し上げます。

■個人結果帳票を返却することのメリット

次のように、個人結果帳票を回答者(対象者)に返却することが回答者(対象者)だけでなく、調査者(研究者など)にもさまざまなメリットになります。

- (1) 現在、自分の食習慣を知る機会は乏しく、多くの人が個人結果帳票に興味をもってくださいます。そのために、個人結果帳票は「お礼」としての役割を果たすことがあります。
- (2) できるだけ信頼度の高い結果を回答者(対象者)に返してあげたいと調査者(研究者など)が考えた場合、ていねいな調査を心がけるようになり、結果としてデータの質が向上します。
- (3) 早く返却することを回答者(対象者)から希望されたり期待されたりすることがあるため、調査、データチェック、再調査を速やかに行うようになり、結果として迅速な調査が実現できます。

上記の3つのメリットはとても大きいと、開発者は考えており、これらのメリットを有効に活用されることを強くお勧めさせていただきます。

■個人結果帳票を返却することのデメリット

メリットだけでなく、デメリットもあります。

- (1) 【介入研究の場合】BDHQ の個人結果帳票ではなく、他の方法によって食事や食習慣の改善を行うことを目的とした介入研究で、栄養素・食品摂取量の変化を把握するために BDHQ を用いる場合には、個人結果帳票を返却すると、それが介入になってしまう恐れがあります。これは研究目的からみればバイアスになります。この場合は、介入終了後に個人結果を返却するなど、研究デザインに即した返却方法を検討します。
- (2) 【コホート研究の場合】BDHQ の個人結果帳票を返却すると、それが介入になってしまう恐れがあり、研究目的からみればバイアスになることがあります。この場合は、どの程度のバイアスになるかをあらかじめじゅうぶんに検討し、研究デザインに即した返却方法を検討します。
- (3) 調査の作業量が多くなり、必要経費もかさみます。

【以上】

この内容は予定なく変更することがあります。あらかじめご了解ください。